

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

ペットと人が最高の関係であり続けるために 海浜動物医療センター

海浜動物医療センターは、従来の動物病院とはまったく異なった、国際レベルの高度医療体制と国内最大級の規模を擁する進歩的な「総合的な動物医療施設」である。

地上5階建、延床面積1,926.78㎡のこの施設は、前面公園の豊かな緑と並木への配慮から、6mのセットバックをしている。この空間がバス停留所のパティオとなり、同時に抱え込むように湾曲したファサードデザインと相俟って、町並みの中に優しい風情を持ち込み、周辺景観形成に大きく寄与している。

室内は、不安を抱えた飼い主と五感が敏感な大小の動物たちへの配慮、医療センターとしての多種多様な機能（診察・手術・入院・宿泊・教育等）に応えるべく、動線計画、仕上げ材料、空調システム等丁寧に計画されている。

ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部門での審査対象でもあったが、人と動物、更に全年代層への配慮と、限られたスペースの中で苦慮した跡は窺えるが、この部門での受賞には至らなかった。

「ペットと共に暮らす人々が、ペットと最高の関係であり続けるために」。長いこと獣医療に携わってきた院長の篤い思いを実現するために、前例のない施設の実現に向けて、設計者が共に取り組んで得た大きな成果を高く評価し、景観部門での奨励賞とした。（夏目幸子）
（撮影/北谷幸一）

建築主：海浜動物医療センター

設計：株式会社意匠院

施工：松栄建設株式会社

所在地：千葉市美浜区高洲4丁目1番18号



西側アプローチ



西側立面夜景

7

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

文化ホールと保健福祉センターの複合施設

千葉市美浜文化ホール・保健福祉センター

音楽ホールと多目的ホールを建物の両端に配置し、中央部に保健福祉部門と文化ホール諸室を設けた珍しいプランの複合施設である。

二つの異なる機能を共用ゾーンで巧みに分離融合するという独特の手法で、市民にわかりやすく利用しやすい空間構成を試みている。

東側のオープンスペースに、ガラスと金属パネルで構成された複数の中空ボックスを突出させ、内部のアクティビティが外からも視認できる親近感もてる表情を醸し出し、都市的な賑わい空間を演出している。

一方、街区に面する西側のファサードは、黒い金属パネルの巨大な壁面で、地域の環境に溶け込むまで暫く時間を要することだろう。

検見川浜駅からの都市軸に対して開いた配置計画とし、隣接公園からの動線も確保するなどして、どこからも気軽にアプローチできる施設としている。

子供たちのために手摺の二段設置や、各階にオストメイト対応の多目的トイレ設備、男性トイレにもベビーベッドを設けるなど、ユニバーサルデザインへの配慮がみられる。

中央と地元設計事務所とのJVによるもので、両者の力量が結実した地域の公共施設の好例として高く評価できるものである。（明智克夫）

（撮影/阿野 太一）

建築主：千葉市

設計：小泉アトリエ・C+A村井建築設計共同企業体

施工：奥村・旭建設共同企業体

所在地：千葉市美浜区真砂5-15-2



東側外観



中ホール
空中にライトチューブが浮かぶ